



稗ま史こ水ん滸ん傳
山東庵京山譯
歌川國芳画
上卷 五編

閑亭

^ 13
3812
5



へ13
381
5

山東庵京山譯 文政丑春
稗史 水滸傳 五編
歌川國芳画 上卷

寛政壬子の春京傳新繪本水滸傳再編
譯して大に世に流行る故今日編成補ハ画作筆
裁異より新編と云ふに主 歟 諸君一覽
下して再評或賜ハ幸甚と 長松閣 叙白



林仲的妻
小張婦人

山洋考 五編



花和尚倒拔
垂楊柳



柴進
之食
客洪
教頭



八
十
万
禁
軍
教
頭
豹
子
頭
林
冲

柴
大
官
人



さつわとに
魯智深九紋竜八瓦罐寺に
立寄り東松のぞんでまゝ一ツける
ふだに夜ももすづくにのけらバツの

繪本水滸傳第五編 叢端

魯智深

九紋竜

○りきえ
つたてん六
ゆるぎひめり
あしの附ゆ
なすかちつ
あつたかひに
書状をよせて
かたられぬさうね
だすとろあしん
きさうらんをうた



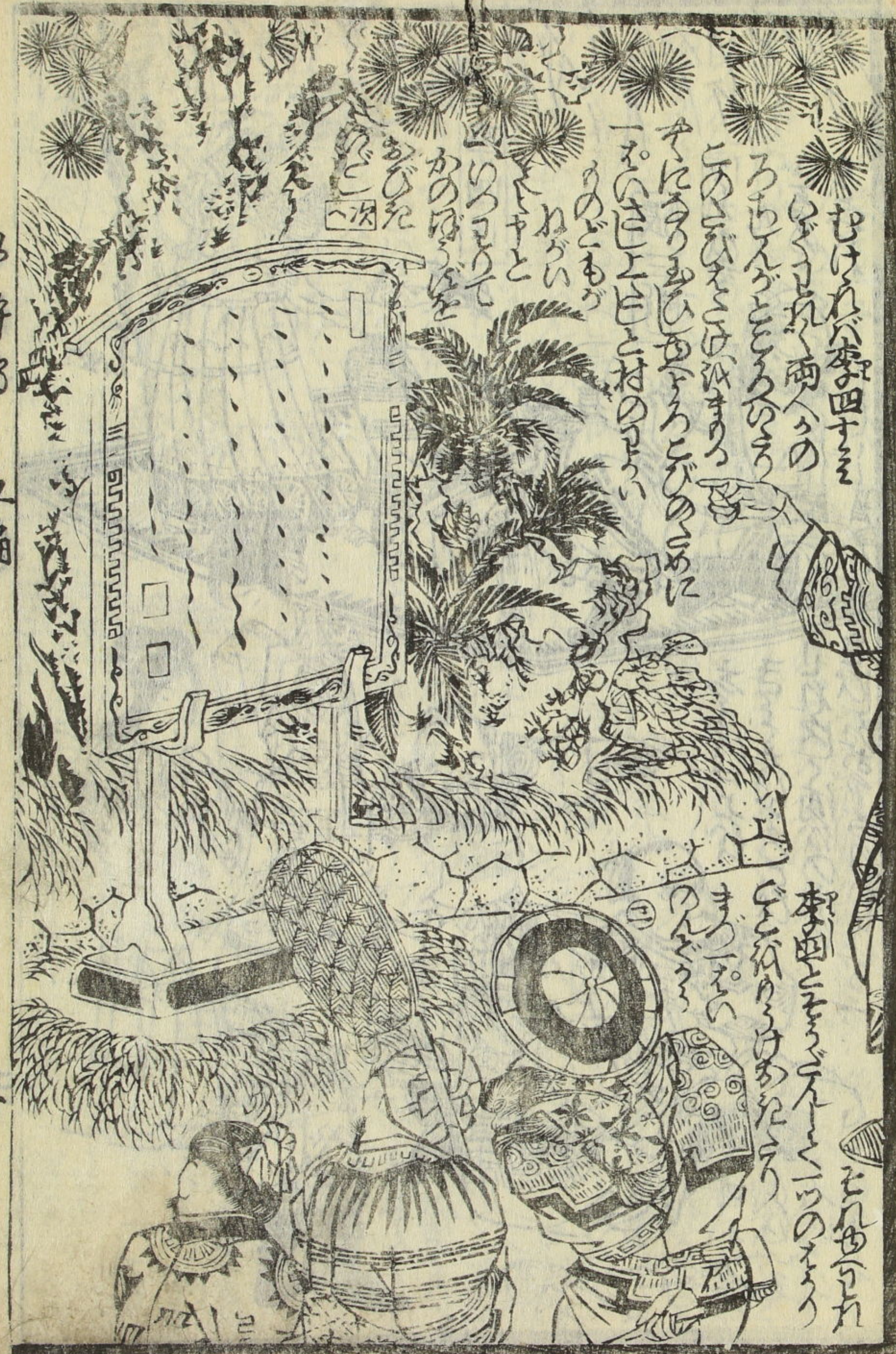
材ふらうて酒を飲りとも両合とらふ
酒合ひきり魯智深九紋竜に
むらひらんぢん
これらりのつこ
ゆん全まるや
史進のけり
日ねこれ
少松山にとこ
ゆんらんぢんぢん
どものどららるる
あつたかひめり
うららるるまき
ちんふひぢ
にく西と
東

○まてけまの某頭とらるるのりかむね
あれどもあつたけれりてふゆだん〇さる
なとに大相国寺のをとりた強三李四
といふ二人のいさうりののりけりつづつ移る
村のこらひの候もつつけあ集りてつづ

東の大相国寺

〇

五景



むけねが李四すま
 いふはれく西へ
 ろちんがとるの
 こひひさしははま
 むけねが李四すま
 いふはれく西へ
 ろちんがとるの
 こひひさしははま
 むけねが李四すま
 いふはれく西へ
 ろちんがとるの
 こひひさしははま

李四
 むけねが李四すま
 いふはれく西へ
 ろちんがとるの
 こひひさしははま



魯智深は
 九紋竜
 李四
 魯智深は
 九紋竜
 李四



張三
 李四
 酒飲のそひひさし
 むけねが李四すま
 いふはれく西へ
 ろちんがとるの
 こひひさしははま
 むけねが李四すま
 いふはれく西へ
 ろちんがとるの
 こひひさしははま



張三
張三
張三

あつて口上は
まじく大にまじりて
これにて酒飲のまじ
まじりてあつて口上は

かき二二の酒飲
のまじりてあつて口上は
あつて口上は
まじりてあつて口上は
あつて口上は
まじりてあつて口上は



あつて口上は
まじりてあつて口上は
あつて口上は
まじりてあつて口上は
あつて口上は
まじりてあつて口上は

三平
五平

三平
五平

五

本河内 五瀬

つたきといへ強三
 李四松を七父
 のこころの気ひた
 つねてんあきにいりち
 あん上座ふるあり本あてて
 かきさくたやのおむいりち
 くれしうるるいしあや
 ほど松のざむらとも強三
 ぬこま松さきいひいりち
 くれさけ村やいこ
 つるののと松のいりち
 めのあつづつぬいりち
 きていのそむいりち
 の松ぬす酒のよま
 ありけがかきいりち
 ちと和尚をあまし
 こねりのちいりち
 和尚のむせよま
 ちあつたまかきいりち
 くれさけかきいりち



あつと大せの
 のこま
 つらて

○すやわけあり
 入るてありのけれ
 るもいんふよるこび
 小玉ニツニツのび
 張三ふの酒



御免せんあつと大せは
 せんきのめ茶
 入るの松のあつと大
 茶をいりち茶をいり
 ありの松のあつと大
 ありの松のあつと大
 ありの松のあつと大

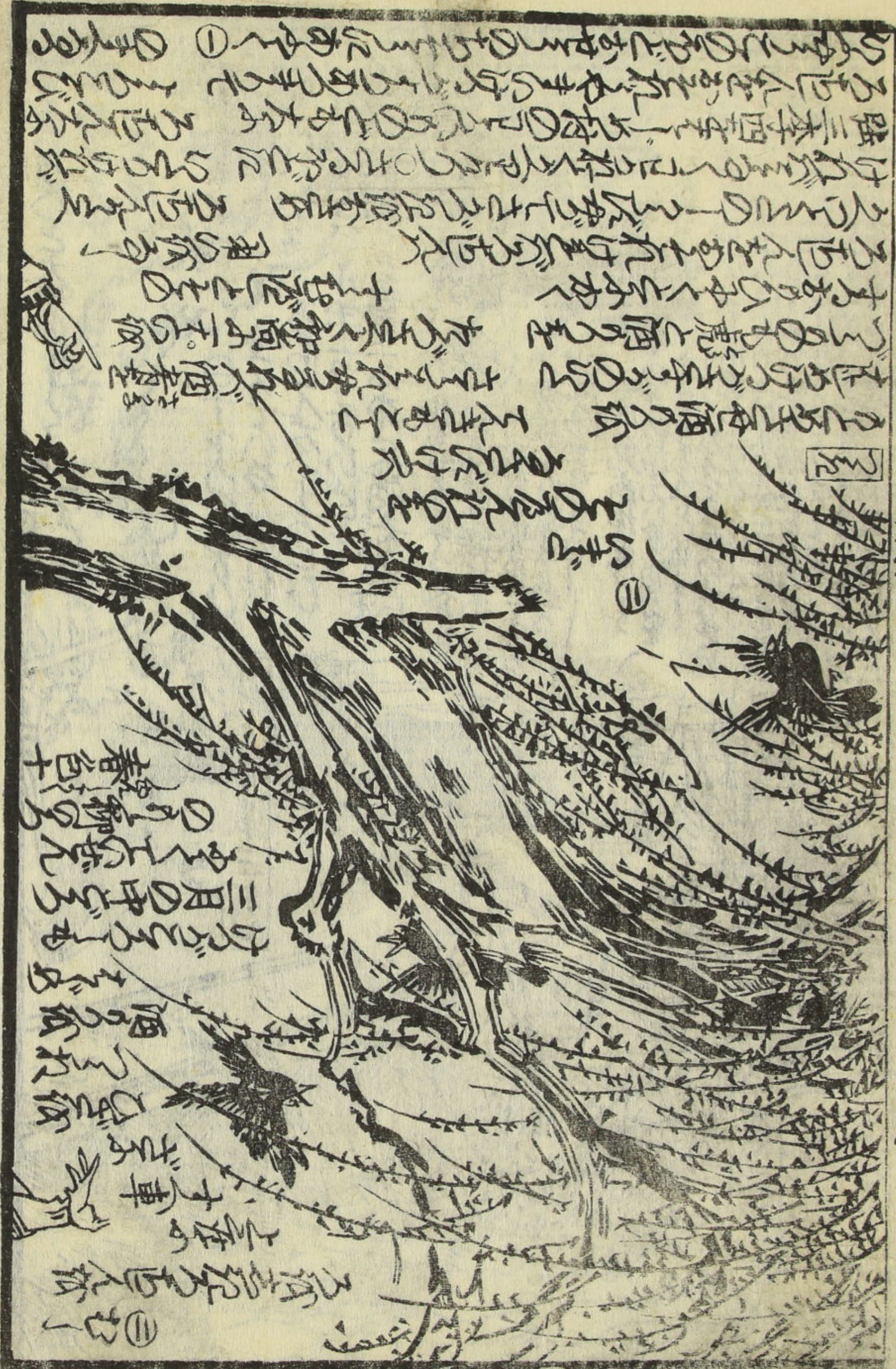
李四松

張三

魚目智深はん

五瀬

水科考 五篇



酒興にまよひて百ねん松
 可なりとて大なるのしきなり
 このあひのうたののきこに
 大なる柳の木ゆりたるが
 とのどろろろは舞を
 つろくは狐を
 めずちまうりに
 るたければ
 るもじんこれ狐
 あくまきこも
 うしゆした
 かすめうと
 うらひ狐あめく
 のきまりなりこのい
 りのどもとれ狐まき
 くれくおせうのこめふ
 むのうすの葉をまうて
 むいさううんとををさうく
 柳のりといのりはれ
 るもじんもてふまきうてとれ狐

林冲景



錦兒景

見方にくすすの葉はるうのこまに
 むせうのののどもまうて狐
 たぐひはかけめぐる葉四が
 いさるんぞまうて狐
 りちまいたれはの
 ことくはけのぶんと
 とちうるはるもじん
 かーとあるんぢ
 わぶるたこと狐
 るまうてはれこれ
 柳をひたぬまき
 うすのすまう狐
 のどくはうと
 りろもごおーぬた
 すと狐またわげひと
 うもあつた柳の本もむんま
 うまつた多のやくとあまうごう
 めのくるとひたぬまきはれは柳のさう
 まふたれうすの四方とひさうなり大せの
 のどもとれ狐まきうてとれ狐

林仲の妻景



松壽堂藏販略目録

清懷中折本手抄目録	女用文章	古抄	高貴用文章	早學用文章	實語教童子教	當時所用習物
-----------	------	----	-------	-------	--------	--------

奥州松島八景之圖唐紙一枚摺 前北齋爲一老人筆	加目位算早割塵劫記 全一冊 此書は加目位算の法を記し、早割塵劫の事を知るに 至るべきものなり。	繪本平家物語 松亭金水譯 此書は平家物語の事を知るに 至るべきものなり。	分間御江戸圖 一枚摺 此圖は江戸の御分間の事を知るに 至るべきものなり。	松壽年代記 兩面摺 此記は松壽の年代を知るに 至るべきものなり。
---------------------------	---	--	--	--



蘭王屑

傷寒を患ふ異國の風土に
 既痛物のいそぎ著るに
 目一切に下し・痛背のいそぎ・洪の毒瘡・その腫
 ・毒ににされ方・そのいそぎ・そのいそぎ・そのいそぎ
 ・取寄ににされ方・そのいそぎ・そのいそぎ・そのいそぎ
 此書に後述する十を挙るものなり

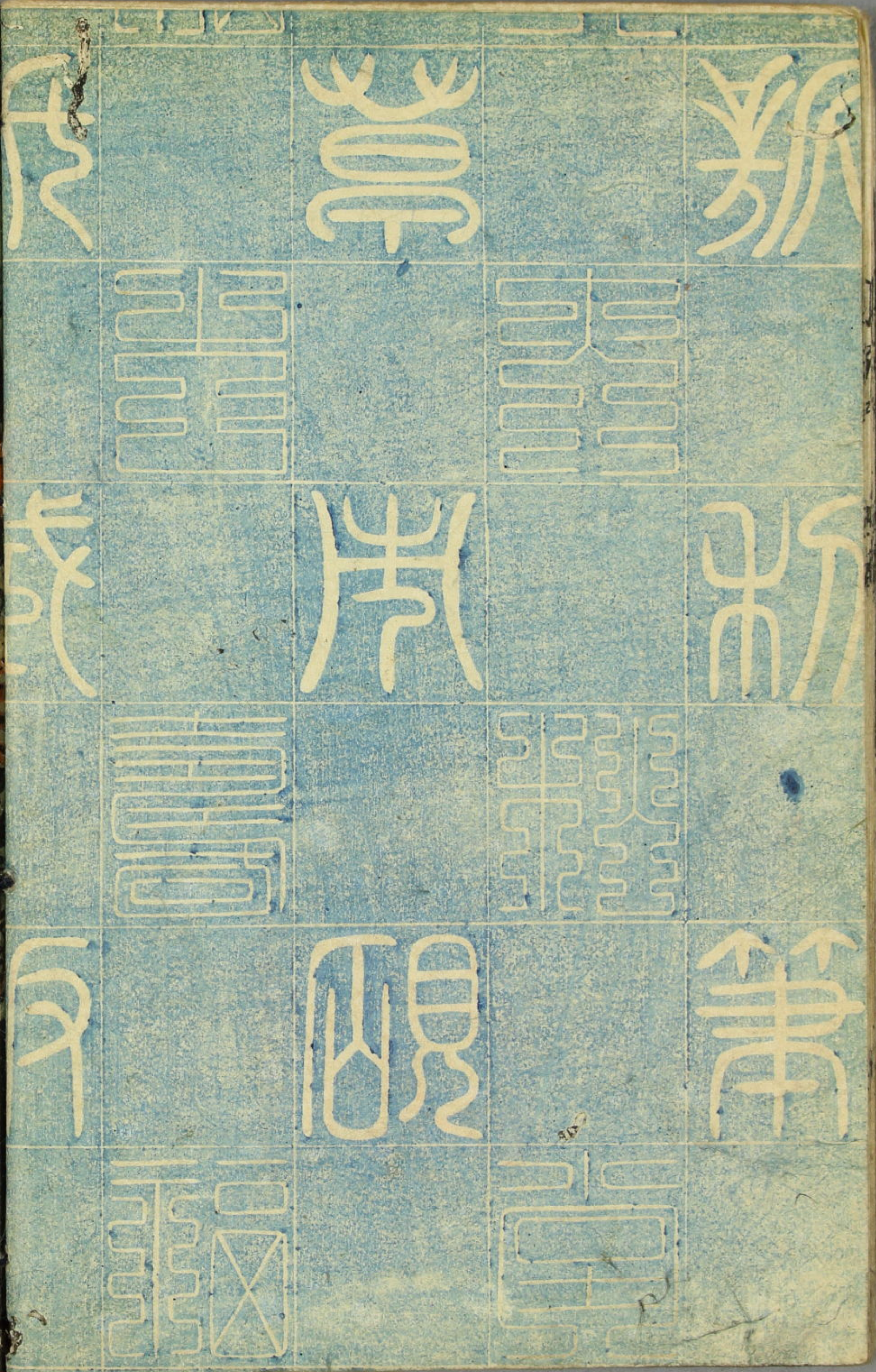
江戸元弘所

小石川春日町 大黒屋長右衛門
 此本の版元 西村屋与八

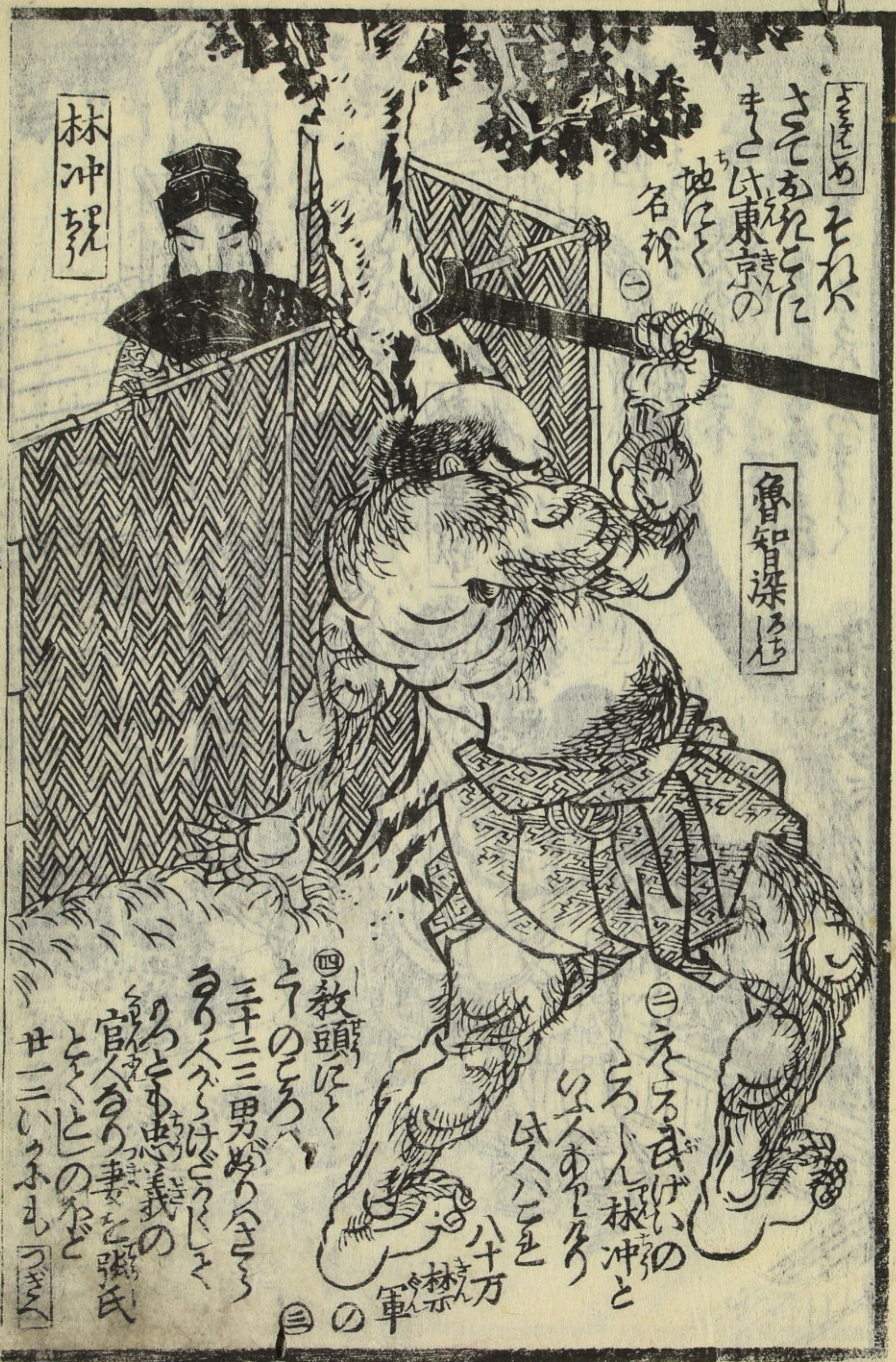
これこれに
 わるに羅漢の
 かりする人あま
 百人のちうにわ
 ざらこの本はひた
 ことあままといふ
 うるちうにわ
 中はににわ
 るあんとありのちを

③うらまひこれ
 中にもこれたれ
 此の法に
 武けの法に
 なることゆ
 りの法に
 つれ日の
 まぐ酒の
 あり
 このまけ

史 稗 山東庵京山譯
水滸傳 五編
 下卷
 敷川國芳画



山東庵京山譯 文政丑春
 稗史水滸傳五編
 歌川國芳画 下卷



林冲

まきめ
 大さか
 まは東京の
 地名

魯智深

① 三十三男の
 官人なる妻を
 廿二いふも
 ② 三十三男の
 官人なる妻を
 廿二いふも
 ③ 三十三男の
 官人なる妻を
 廿二いふも
 ④ 三十三男の
 官人なる妻を
 廿二いふも



林冲妻 林冲妻

美入おてまきや
うけれどもぬまの
うらむらましく

くじけやこほりも

三月のそこのどき

けいぬまのあとも

岳廟のそとま

神まのせまも

林仲八用のゆき

とらひのつるの

錦兒ををれと

水いのでくる

蝶のこてり

くまはくす

強氏岳廟

水滸傳

五編



高休男 高休男

富安 富安

林冲がうまひアそく
うごうけるがそろの
うちた

十一

百官のともぐらもこれに
 あつらひの父にひとこの女
 いふものも妻のあつらひも
 るのふらふらのあつらひと強氏
 がそとをさすりて今日とはと
 さんけいのあつらひとさあぐの
 花をえんこれとあつらひと
 てるの中の花の玉をえん
 めくいらもぬらんのあつらひ
 ありせのさあぐとあつらひと
 まのせんころとあつらひと
 あつらひとあつらひとあつらひと
 けれど強氏ハつらひとあつらひ
 日とあつらひとあつらひとあつらひ
 きつらひとあつらひとあつらひ
 あつらひとあつらひとあつらひ
 そととあつらひとあつらひとあつらひ
 のあつらひとあつらひとあつらひ
 にあつらひとあつらひとあつらひ
 つゆをくりとあつらひとあつらひ



錦兒

富安

百官のともぐら

高野大尉八天子の大官けん
 せのりともほつらひとあつらひ



高野内

林中妻

めろそろろあつてあつて
 いまじのうらたとらせバ
 きんせんよりりのあけあつて
 わる高衛内がうきもの
 ともてせまきこころきんちか
 なるけこのあつてあつたれ
 ともあつたれいなるあつたれ
 ともあつてあつてあつてあつて
 たもこれとゆきあつてあつて
 ともあつてあつてあつてあつて
 ともあつてあつてあつてあつて

① 錦兒鏡
 あつてあつてあつてあつて
 錦兒鏡のうらたとらせバ
 きんせんよりりのあけあつて
 わる高衛内がうきもの
 ともてせまきこころきんちか
 なるけこのあつてあつたれ
 ともあつたれいなるあつたれ
 ともあつてあつてあつてあつて
 たもこれとゆきあつてあつて
 ともあつてあつてあつてあつて
 ともあつてあつてあつてあつて



五編

十四



魚目智深りん
 錦兒鏡
 高衛内
 林冲
 魯智深
 深りろ
 かの鏡
 林冲ゆをどめて

五編

十三



つれづれに武官のせんせの林冲
 さあつりさうさその人殺
 つねにのせし上それとそ
 中すれらのさう救頭さう
 こまて入あさうさハ
 あやうにたのめせん
 大尺あまりのくれね
 一とふいふとてこさ
 めとろあむ人にいあん
 今たがのる名をさうの
 けねはるあむ人を殺さ
 大ふらうのこひ林きさ
 とうの父とていれむ
 のさあさうのひとさ
 るるあまのさうさ
 すめやさんまうこま
 ぬこさのさうさけ林冲

①のて
 多りけ
 〇こにま
 かのこ
 きんちの
 をあげ
 たのれ
 めがりの
 トのい
 とたろ
 つひれ
 せとろ
 くきん
 づた
 めこ
 マ
 高衙内

五五

十五

たるね
 けれん
 きょう用
 わりく
 林沖さあを
 さうめりまの
 りのこらひの
 かうとさうち
 ころのまねぬ
 ころのまねぬ
 ききうとさう
 ののあんまの
 のうちまの
 酒飲のんてか
 あふまの
 あひさ
 かしけれん
 きんちのあひ
 さう事もあふ



五編
 五編

林沖のいふに
 うけ入林沖を
 まるくのさゆり
 がくびきうに
 とぬ人をす
 いせせれぬ
 たのいひけ
 大いりろ
 さあもせ
 ころのま
 ころのま
 ころのま



林沖のいふに
 うけ入林沖を
 まるくのさゆり
 がくびきうに
 とぬ人をす
 いせせれぬ
 たのいひけ
 大いりろ
 さあもせ
 ころのま
 ころのま
 ころのま

五編

十五



林冲妻

林冲

つきの
ちか
もあ
こはれ
高衙内
すを
いけ
無びきうのじろかきさう

○
を
入る
んと
すは
林冲



錦兒

これ狐アそとよふきさうい
るろのみのどもてきさう
林冲をちかめ教頭いり
ことさうれうの人たあ酒を
すはひひおたまさるの内
かこももさう酒のあいひ
さあひやせまのそ今のもり
ありこれいんあもこひ
あういあそ天せいのち
けまの林冲いよせん張氏と
きんちと狐あうりちし西人を
ひれつれぬびきうの門せん立いでり
けあせもろちんせんさうをひり
さけ大せのをさうさうさ
すけきいさうさうさう高太尉が
ちさやうち高衙内をかこれ
るんこれちのりさうさうさ
すじのちかめいもろちん高衙内を
かすともあもいんこののせんさう
かいらぬさういさうと無びきう

とめけれ
ろちん酒
あうさうにさう
まや
つち
け
人のい
松のどかん
すはせさう
がうおのこのむ



ものありつゝも高衛隊のものを
ててこれ故はさり一つのそつもの
をりうけく林冲が舞な
たがりの高衛隊のものを
をりうけく高衛隊のものを
大にあり
ひくれ
さけて高衛隊のものを
すはるにうの岳ひきはるんあひ林の花
口まきかてく高衛隊のものを
ゆきぎのそありのものを
をりうけく高衛隊のものを
をりうけく高衛隊のものを
のひけき高衛隊のものを
をりうけく高衛隊のものを
どるさればはうれうれあひ
かけらる陸謙の林冲が
明日陸謙にかせせられ
さそひいごせややや茶屋つれさ
て酒をのませよのぬんひま
とせとのぬんひま

林冲が妻のものを
すれずしてあるもの
うらひぬらうと口まき
すい日さよのぬんひま
とせとのぬんひま

林冲が妻

林冲が妻のものを
すれずしてあるもの
うらひぬらうと口まき
すい日さよのぬんひま
とせとのぬんひま



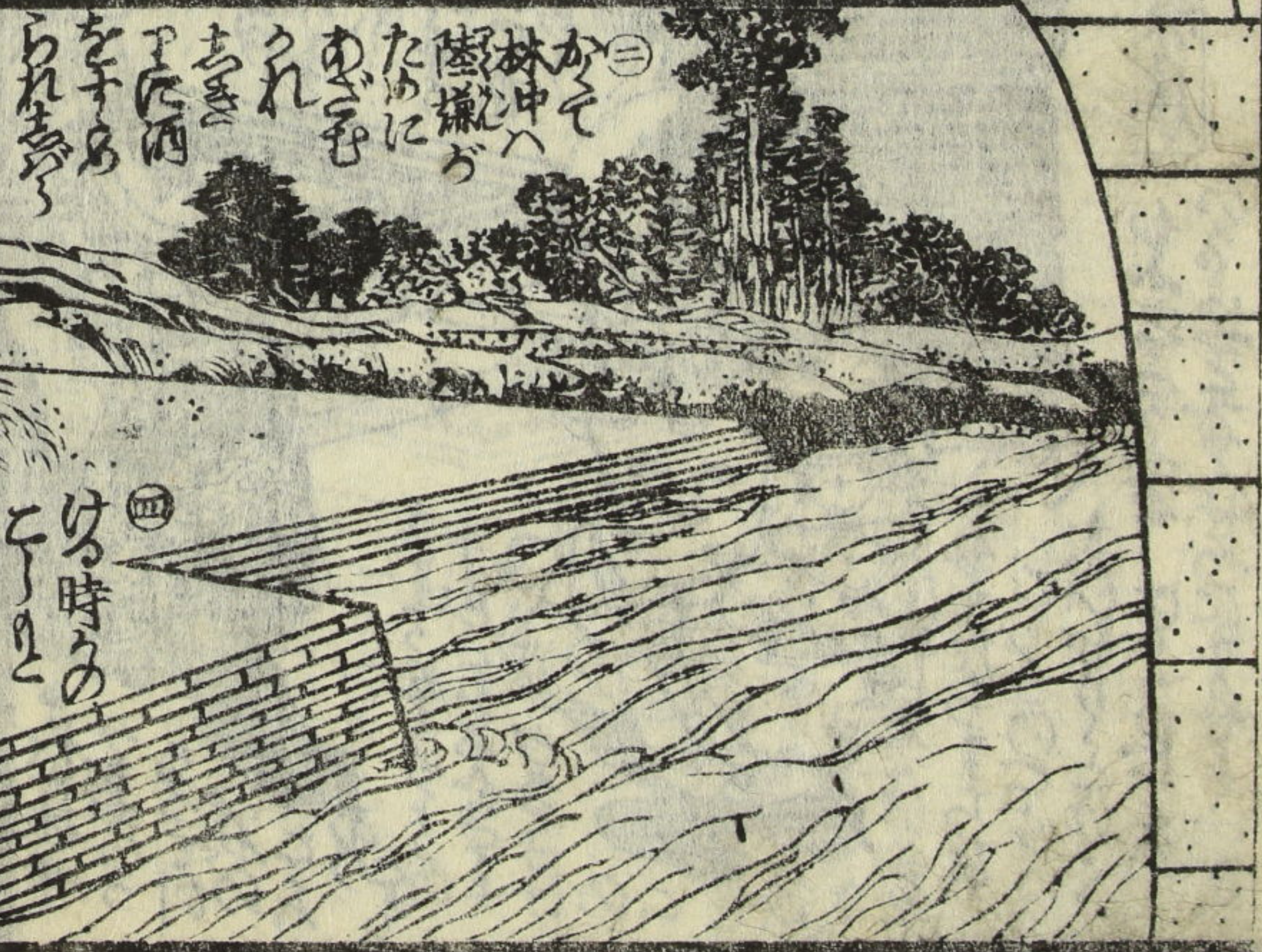
ものありつゝも高衛隊のものを
ててこれ故はさり一つのそつもの
をりうけく林冲が舞な
たがりの高衛隊のものを
をりうけく高衛隊のものを
大にあり
ひくれ
さけて高衛隊のものを
すはるにうの岳ひきはるんあひ林の花
口まきかてく高衛隊のものを
ゆきぎのそありのものを
をりうけく高衛隊のものを
をりうけく高衛隊のものを
のひけき高衛隊のものを
をりうけく高衛隊のものを
どるさればはうれうれあひ
かけらる陸謙の林冲が
明日陸謙にかせせられ
さそひいごせややや茶屋つれさ
て酒をのませよのぬんひま
とせとのぬんひま

林冲が妻

林冲が妻のものを
すれずしてあるもの
うらひぬらうと口まき
すい日さよのぬんひま
とせとのぬんひま

つれいにいふれ高御内とあ
らにあらざるをのめあつて
かの死さるゝにへるちぢぢ
のどまにさるせあつて
あつてびびらるるつる
とす陸兼をまひ
よふむと身をまを
らせるとまをこひなる
こゝにまゝ林冲の妻と
りあつてもいけのあつたせ
きだるるつる
の死をさるる
こゝれと錦兒が
あつるにまをさる
るどまにまを
つるあつた
陸兼をさる
岳廟をさる高御
だつてごめあつた
るあつたつる

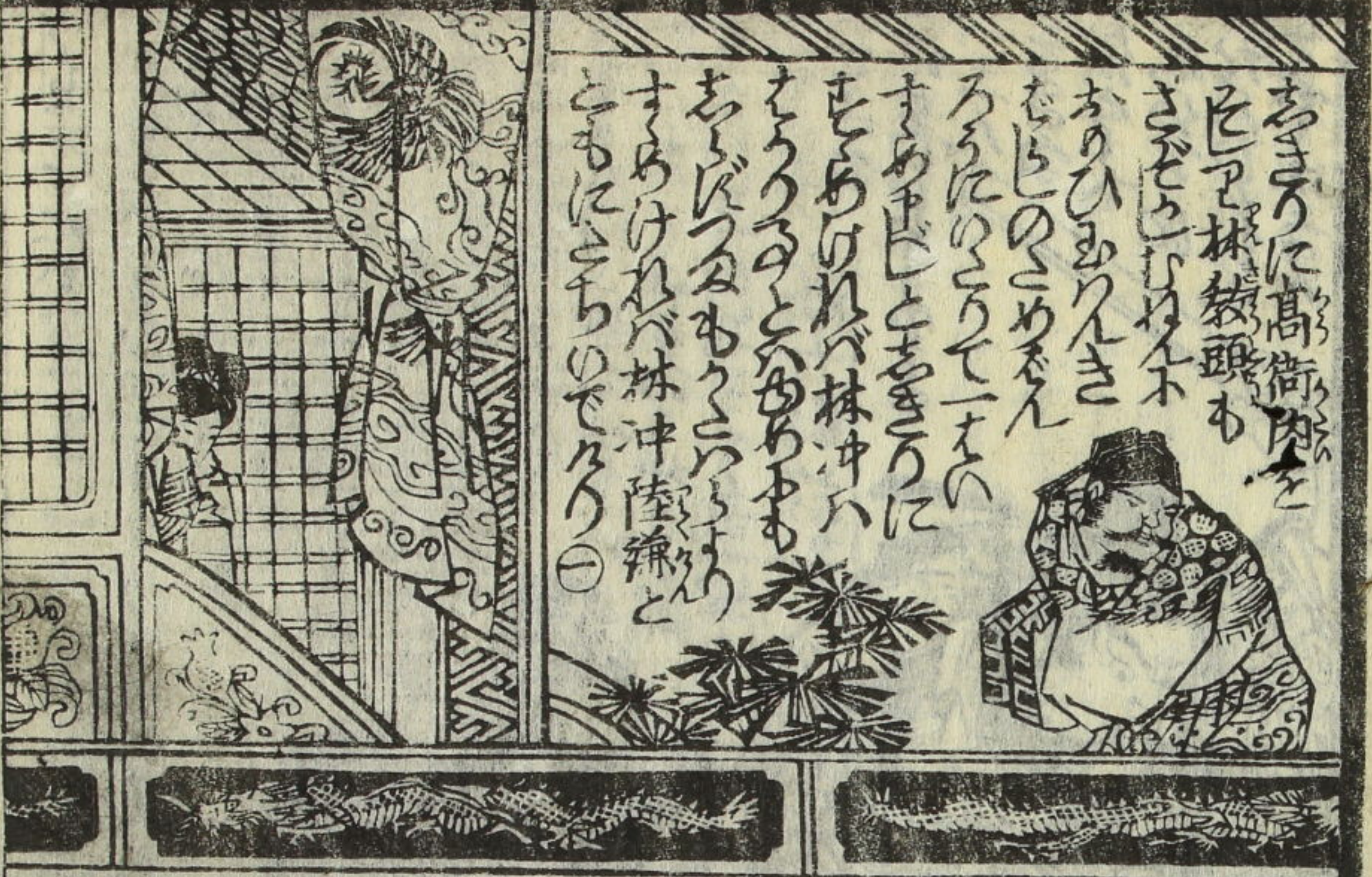
林冲



か
林冲
陸兼が
ために
あつて
これ
ま
まに酒
をすあ
られま

けつ
つる
てし

あまのり高御内を
に林教頭を
さつとつむす
あつひあつて
をとこのめえん
るらたのらつて
すあまつとまを
まをあげれば林冲の
まをらつとあつた
あつてつるあつた
すあつたあつた林冲陸兼と
ともにさつとつむす



く
あつ
あつ
あつ
あつ
あつ

林冲
ま
ま
ま

ついでにこれにせしむる志は世ののちのちをききりしとせ
 陸謙が二つある
 酒儀のまゝおはひしやあら
 うふたひひまゝうりものもあ
 り内々こそや
 まゝのゆゑとききごとくあは
 ざる大にあらたき
 さす立ゆゑゆゑあま
 むとよりそをまのりやうす
 うかひひはひつぞやあびま
 むてゆゑ
 どさな
 高太尉の
 にはむれい
 ぞき
 松久
 をま
 松久
 志のり
 松久
 松久



④おびせなれはは
 おてかるの
 らうしに妻をひ
 つれまゝのりのか
 高太尉はるほに
 のるまはまの林
 が妻をこひま
 ついおあり
 かまひら
 父の大尉高
 幸ひのそん
 げんをさ
 大いり
 じり子の
 幸ひはま
 林
 あり
 くれ
 あり

きびすの
 けは林
 ささ
 のむ
 松久
 たすけ
 身け
 林
 かく
 たく
 すき
 かけ
 とさ
 ひろ
 うち



①ち
 富安陸謙を
 富安

録目略販藏堂壽松

京上譯



つたててそのそのの...
 二つたててそのそのの...
 三つたててそのそのの...
 四つたててそのそのの...
 五つたててそのそのの...
 六つたててそのそのの...
 七つたててそのそのの...
 八つたててそのそのの...
 九つたててそのそのの...
 十つたててそのそのの...

時代...
 金...
 世...
 人情...

風俗金魚傳

曲...
 歌...
 川...
 國...
 直...
 画...

魚子...
 天...
 果...
 水...
 池...
 泉...
 井...
 池...
 泉...
 井...

天保大雜書方々曆

此...
 書...
 日...
 月...
 星...
 宿...
 神...
 仙...
 聖...
 賢...
 人...
 物...
 事...
 跡...
 履...
 信...
 實...
 表...
 裏...
 表...
 裏...

三芝居 聲色早合点

此...
 畫...
 人...
 國...
 貞...
 画...

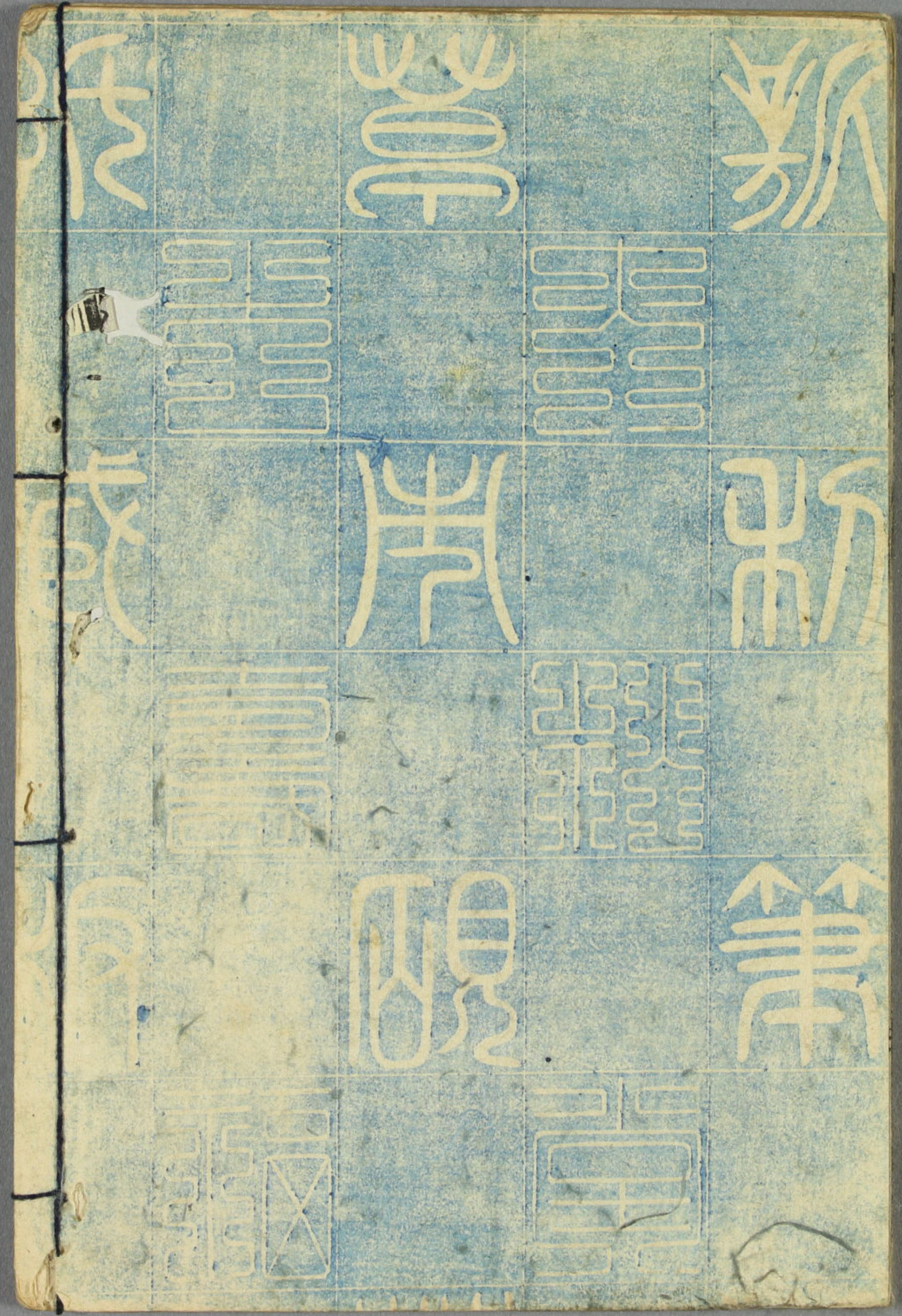
國字水滸傳

此...
 仙...
 果...
 作...
 國...
 芳...
 画...

美艷仙女香
 黒油美玄香
 一包四十八文
 坂下氏精製

地本錦繪問屋
 大黒屋平吉

此...
 畫...
 仙...
 果...
 作...
 國...
 芳...
 画...



新

雅

天

新

天

成

集

觀

月